

水産海洋学会発表大会シンポジウム

「生態系構造と食物網の視点から変動環境下での漁業生産を考える」

日 時：2017年11月17日（金）10：30～17：00

場 所：広島市西区民文化センター（広島市西区横川新町6-1）

主 催：一般社団法人水産海洋学会

コンビーナー：堀 正和（水産機構瀬水研）、富山 毅（広島大生物圏）、阿保勝之（水産機構瀬水研）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長）

10：30～10：35

趣旨説明：堀 正和（水産機構瀬水研）

10：35～10：40

第一部 座 長：堀 正和（水産機構瀬水研）

1. 栄養段階・食物網構造とその制限要因に関する理論研究の動向 10：40～11：15
瀧本 岳（東京大学大学院農学生命科学研究科）
2. 琵琶湖の動物プランクトン群集に対するトップダウン効果 11：15～11：50
伴 修平（滋賀県立大学環境科学部）

昼休憩

11：50～13：00

第二部 座 長：富山 毅（広島大生物圏）

3. 海洋生態系における食物網構造の把握と漁業の影響評価に向けたアプローチ 13：00～13：30
清田雅史（水産機構国際水研）
4. 東日本大震災後の食物網構造の変化と沿岸資源魚類の動向 13：30～14：00
富樫博幸・栗田 豊（水産機構東北水研）
5. 瀬戸内海の生態系構造と栄養段階構造の概要 14：00～14：30
樽谷賢治（水産機構西水研）

休 憩

14：30～14：45

座 長：阿保勝之（水産機構瀬水研）

6. 瀬戸内海東部の栄養塩変化と食物網構造の解析 14：45～15：15
山本昌幸（香川水試）
7. 瀬戸内海における栄養塩変化に伴う栄養段階を介した低次魚類の動態予測 15：15～15：45
河野悌昌（水産機構・瀬水研）

総合討論

コンビーナー(司会)・講演者全員によるパネルディスカッション

15：45～17：00

開催趣旨：わが国の漁業の特徴として、大型魚類だけでなく小型種に至るまで様々な栄養段階から漁獲物を得ていることがあげられる。近年は津波や台風、集中豪雨などの天災・気候変動などの攪乱による生態系の大規模な変化に加え、栄養塩排出規制などの環境管理、あるいは特定の種を対象とした資源管理などによって生態系構造や食物網に変化が生じるようになった。そもそも生態系内での生物による捕食・被食作用を示す食物網・栄養段階構造は、生態系の様々な要素（生態系生産性、生態系サイズ、攪乱、種構成など）によって制約をうけることが理論研究・実証研究の双方から示唆されている。気候変動への適応や環境配慮型社会へと社会システムが変化するなか、変動する環境条件に伴い変化する食物網構造を解明し、各栄養段階から資源を得つつ生態系構造を適切に管理していくことは、これからの持続的漁業に重要となる。そこで本年度のシンポジウムでは、理論研究や様々な生態系での事例研究から環境変動と生態系構造との関係に関する概念や手法を学び、さらに総合討論では開催地である瀬戸内海を対象に、これからのより良い生態系管理に向けた議論を行うことを目的とする。